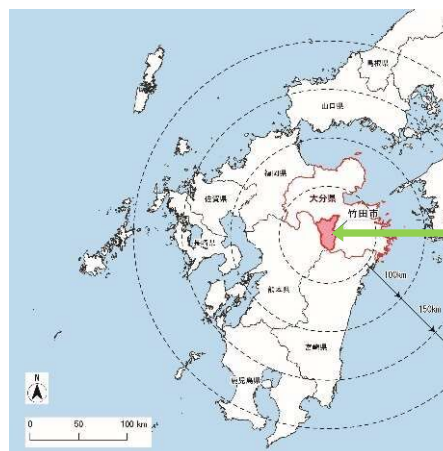


18 竹田市文化財保存活用地域計画【大分県】

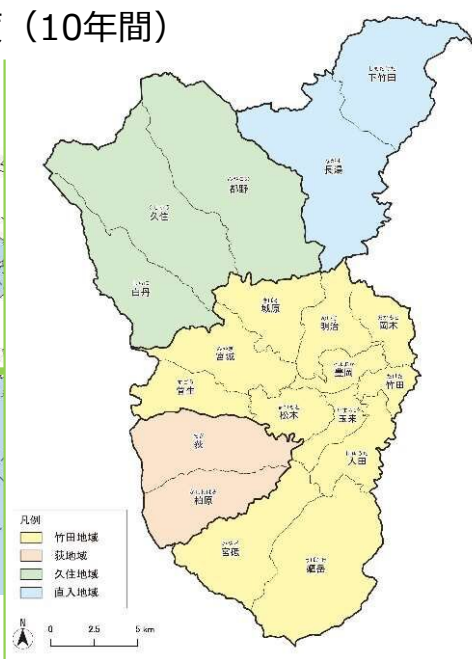
【計画期間】令和5～14年度（10年間）

【面積】477.53km²

【人口】約2万人



●竹田市の位置と地域区分



●指定等文化財の分布



●指定等文化財件数一覧

種別	国		県		市	総計
	指定	登録	指定	選択	指定	
有形文化財	3	18	16	—	84	121
建築物	2	18	6	—	41	67
絵画	0	0	4	—	3	7
彫刻	0	0	6	—	24	30
工芸品	1	0	0	—	9	10
書跡	0	0	0	—	0	0
典籍	0	0	0	—	0	0
古文書	0	0	0	—	4	4
考古資料	0	0	0	—	3	3
歴史資料	0	0	0	—	0	0
民俗文化財	0	—	3	1	31	35
有形の民俗文化財	0	—	0	0	6	6
無形の民俗文化財	0	—	3	1	25	29
記念物	10	1	16	—	64	91
遺跡（史跡）	4	0	5	—	37	46
名勝地（名勝）	0	1	1	—	3	5
動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	6	0	10	—	24	40
総計	13	19	35	1	179	247

※6類型のうち、無形文化財、文化的景観、伝統的建造物群は指定等の実績なし。

※動物、植物、地質鉱物（天然記念物）国指定6件のうち1件は特別天然記念物（カモシカ）。

※令和4年（2022）3月末時点での数値。

指定等文化財は、247件

未指定文化財は、3,475件把握

●歴史文化の特徴

阿蘇くじゅうの大自然と共に生きる歴史文化

くじゅう連山と南麓の高原に雄大な自然がひろがる。山々は信仰や観光の対象としても親しまれ、野焼きにより自然景観が維持されてきた。長湯温泉等の温泉資源もまた大自然の恵である。また、久住山南麓や阿蘇外輪山東麓にひろがる高原の台地上に、地域性豊かな弥生文化が花開いた。

“みち”がつなぐ歴史文化

古くからの九州交通の要衝地である。景行天皇の土蜘蛛征討に由来する神社が多く、神楽・獅子舞・白熊等の伝統芸能も色濃く残る。中世には南郡衆ら屈強な武士達が生き、キリシタン信仰も盛んであった。近世には城下町と村々をつなぐ道が発達し、肥後街道も横断。トンネル（穴）が多いことから、近代にはレンコンまちと呼ばれるようになった。

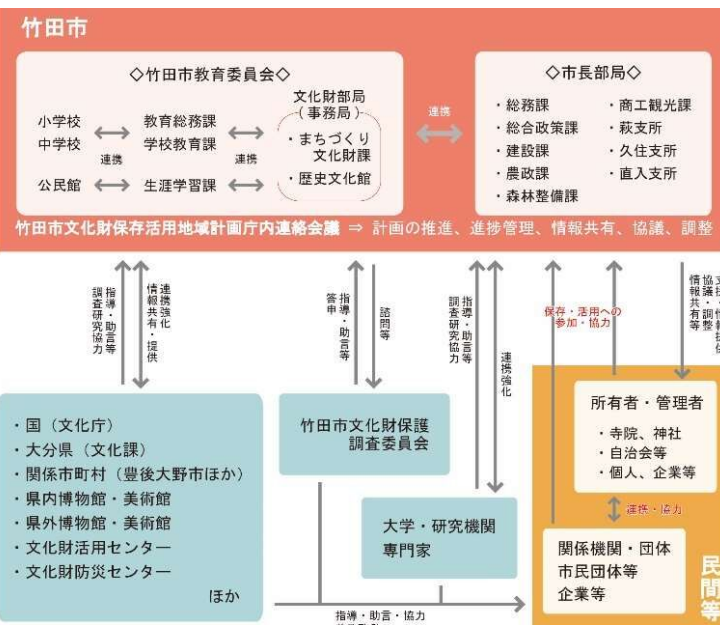
岡藩の繁栄がもたらした歴史文化

岡城を居城とした岡藩主中川氏による統治は13代、約280年間にも及んだ。城下町は奥豊後の政治・経済・文化の中心地として賑わい、後に藩校も整備され、田能村竹田など多くの偉人を輩出した。竹田市の歴史文化の基盤は岡藩時代に培われ、近代へと継承、今につながるまちづくりが展開されてきた。

祖母山に抱かれた奥豊後の歴史文化

南側に祖母・傾山系の山々が連なり、奥山の大自然がひろがる。祖母山は「姫岳大明神」そのものであり、古くから信仰の対象であった。麓には緒方惟栄にもつながる「大蛇伝説」が伝わる。また、竹田市には湧水や滝などが各所に分布し、田畑を潤すための農業遺産も多い。山の恵みである豊富な水資源を産業や生活に活用してきた。

●推進体制



【基本理念】「竹田らしさ」を彩ってきた文化財を知る・守る・活かす

基本方針 1

文化財を知る —調査と研究—

1) 文化財の調査研究の推進

- ア) 把握調査等の実施
- イ) 専門的な研究活動の実施

2) 情報発信と価値の共有

- ア) 調査研究成果の公開と共有
- イ) インターネットを活用した情報発信

基本方針 2

文化財を守る —保存と継承—

1) 文化財の適切な保存

- ア) 指定等と保護施策の実施
- イ) 資料収集と保存施設の整備
- ウ) 伝統芸能の継承と支援
- エ) 市民参加の保全活動の推進
- オ) 社会教育との連携

2) 未来の担い手づくり

- ア) 学校教育との連携
- イ) 文化財愛護少年団に対する支援

基本方針 3

文化財を活かす —まちづくりへの活用—

1) 文化財を活用した交流と賑わいの創出

- ア) 文化財整備の展開
- イ) デジタル技術による文化財活用の推進
- ウ) 回遊性の向上とガイダンス機能の整備
- エ) 文化財を活用した多様な取組の展開
- オ) 地域大学連携事業の実施

文化財の保存・活用に関する現状と課題

- ① 指定等文化財の調査不十分。
- ② 寺社所有有形文化財の悉皆的な把握調査が必要。
- ③ 把握調査の実施状況に地域的かつ分野的な偏りがある。
- ④ 調査員、専門職の不足等、体制の整備が必要。

- ① 個別の文化財の調査研究について進捗に差がある。
- ② 研究員、専門職の不足等、体制の整備が必要。
- ③ 市民や民間主体の研究活動の促進が必要。

- ① 報告書等の継続的な刊行が必要。
- ② 歴史文化館での企画展等の継続的な実施が必要。
- ③ 講演会や講座等の継続的な実施が必要。
- ④ 民間主体の研究活動の促進が必要。

- ① 岡城跡HPやSNSを有効活用できていない。
- ② 竹田市HPに載せている文化財の情報不十分。
- ③ インターネットを利用した情報公開の取組が必要。

- ① 指定等文化財に対する保護施策が不十分。
- ② 未指定文化財に対する保護施策がない。
- ③ 支障木等、文化財の周辺環境の悪化。
- ④ 関係機関・団体との協力体制の構築が必要。
- ⑤ 保存修理の専門職員が不足する等、体制の整備が必要。

- ① 保存施設のさらなる整備が必要。
- ② 貴重資料の市外流出を未然に防止する必要がある。

- ① 伝統芸能の維持に向けた支援が必要。
- ② 伝統芸能の用具整備への支援が必要。

- ① 市民参加の保全活動等に対する連携と支援が必要。
- ② 動植物の保全活動への支援が必要。

- ① 公民館活動と連携した取組を展開していく必要がある。

- ① 学校教育との積極的な関わりが必要。

- ① 文化財愛護少年団の維持と活動の支援が必要。

- ① 文化財の整備の進捗に差がある。
- ② 説明板や誘導看板が不十分。

- ① 岡城跡のARアプリの利用者数増を図る必要がある。
- ② デジタル技術による文化財活用の展開が必要。

- ① ガイダンス施設の利用者数増を図る必要がある。
- ② 城下町パスポートの利用者数増を図る必要がある。
- ③ ガイドの育成と連携の構築が必要。

- ① 貴重な観光資源として、保存と両立した形での文化財の有効活用を図る必要がある。
- ② 文化財を活用した取組やイベントの継続的な活動が懸念される。

- ① 事業内容の選定など調整を要する。
- ② 学生の積極的な参加を促すことが必要。

文化財の保存・活用に関する方針

- 1 **<方針1> 1-1-ア 把握調査等の実施** 市民とともに、「竹田らしさ」を彩る文化財、まちづくりにとって重要な地域資源である文化財の把握を行う。
- 2 **<方針2> 1-1-イ 専門的な研究活動の実施** 調査等で把握した文化財とその周辺について専門的な研究活動を行い、その本質的価値を明らかにする。
- 3 **<方針3> 1-2-ア 調査研究成果の公開と共有** 展示・刊行物・講座などの事業を展開し、調査研究成果を広く公開し、多くの市民等に関心を持ってもらう。
- 4 **<方針4> 1-1-イ インターネットを活用した情報発信** ホームページやSNS等、インターネットを有効活用した情報発信を展開し、広く市民等に周知する。
- 5 **<方針5> 2-1-ア 指定等と保護施策の実施** 文化財の特性に応じた適切な保存と管理を図り、後世へ確実に継承する。また、保存のための財源の確保に努める。
- 6 **<方針6> 2-1-イ 資料収集と保存施設の整備** 文化財の市外流出を未然に防止し、後世へ確実に継承するために、歴史文化館を中心に適切な保存環境の整備を推進する。
- 7 **<方針7> 2-1-ウ 伝統芸能の継承と支援** 地域の祭礼や伝統芸能の継続的な活動の展開を推進する。
- 8 **<方針8> 2-1-エ 市民参加の保全活動の推進** 多様な市民参加の保全活動の展開を推進し、円滑に実施されるよう関係機関と連携し、支援を行う。
- 9 **<方針9> 2-1-オ 社会教育との連携** 文化財の維持管理と保存を担う地域住民を育むために、公民館や地域と連携した取組を展開する。
- 10 **<方針10> 2-2-ア 学校教育との連携** 文化財の魅力と価値を共有するための教育プログラムを実現させ、文化財の保存・活用に携わる“未来の担い手”を育てる。
- 11 **<方針11> 2-2-イ 文化財愛護少年団に対する支援** 文化財愛護少年団が継続的に活動できるように、その支援を行う。
- 12 **<方針12> 3-1-ア 文化財整備の展開** 文化財の魅力を最大限に引き出すように、その整備を行い、活用しやすい環境づくりに努める。
- 13 **<方針13> 3-1-イ デジタル技術による文化財活用の推進** ARアプリ「岡城跡空散歩ARガイド」の活用を推進するとともに、他の文化財へ新たな展開を図る。
- 14 **<方針14> 3-1-ウ 回遊性の向上とガイダンス機能の整備** 歴史文化館を軸に、岡城跡から旧城下町へ、旧城下町から各地域へと、ひとの流れを創出し、多様なまちづくりの展開を支援し、地域の活性化につなげる。
- 15 **<方針15> 3-1-エ 文化財を活用した多様な取組の展開** 様々な視点から文化財を身近に感じられるよう、市民等による多様な活用を推進し、まちづくりと地域の活性化につなげる。
- 16 **<方針16> 3-1-オ 地域大学連携事業の実施** 大学連携センターを拠点に地域と大学の連携を図り、地域づくりの一環となるように事業を展開する。

文化財の保存・活用に関する措置

文化財の保存・活用に関する措置の例

基本方針1

1-1-ア 把握調査等の実施 措置No.3・4

寺院・神社所蔵文化財の把握調査

市内各地には、由緒ある寺院、神社、堂宇、小祠が数多く分布しているが、そこに所在する有形文化財（建造物、絵画資料、工芸品等）等の把握ができていない。

そのため、それら寺社所蔵文化財の総合的な把握調査を実施する。



願成院の天弓愛染明王像（部分）※未指定

取組主体：市文、民間等
計画期間：R5～14

基本方針2

2-1-ア 指定等と保護施策の実施 措置No.23

指定等文化財の保存修理と管理

指定等文化財の現況確認調査の結果や所有者の意向を確認し、国・県等の補助金を活用しながら、指定等文化財の保存修理を行う。



岡城跡（国指定史跡）下原門石垣の復旧工事

取組主体：市文、市他（建・観）、民間等
計画期間：R5～14

基本方針3

3-1-イ デジタル技術による文化財活用の推進 措置No.41

アプリ「岡城時空散歩ARガイド」の活用の推進

ARアプリ「岡城時空散歩ARガイド」の利用者数増を図るとともに、同アプリを活用したイベント（観光者向け）や学習会（市民向け）等を実施する。



取組主体：市文、市他（観・生）、民間等
計画期間：R5～14

各ポイントでは音声ガイドと復元建物の3Dが表示される。

1-1-ア 把握調査等の実施 措置No.5

未指定文化財の把握調査

地区毎に未指定文化財の総合的な把握調査を行い、未指定文化財リストの更新を行う。

萩・久住・直入地域で最優先に実施し、竹田地域では「竹田市誌」地区誌編の再確認を行う。



拝田原の稲生六子墓（儒式墓）※未指定

取組主体：市文、市他（総・支）、民間等
計画期間：R5～14

2-1-工 市民参加の保全活動の推進 措置No.31

文化財と周辺環境の保全活動の実施と支援

文化財及び周辺の清掃作業等を実施する。地域住民主体の活動について支援を行う。

例）「岡城清掃の日」岡城跡石垣清掃ボランティア活動、岡藩主中川家墓所清掃活動（おたまや公園清掃活動、大船山入山公墓所清掃登山）、七ツ森古墳群清掃活動、など



久住高原農業高校による入山公墓所清掃登山（写真はH28）

取組主体：市文、市他、民間等
計画期間：R5～14

3-1-ウ 回遊性の向上とガイダンス機能の整備 措置No.45

城下町パスポートの活用と展開

竹田まち歩き城下町パスポート（城下町文化施設共通観覧利用券）を有効活用したイベントの実施等、城下町における交流人口の拡大を図る。



取組主体：市文、市他（観・生）、民間等
計画期間：R5～14

対象施設は、岡城跡、歴史文化館、旧竹田荘、龍廉太郎記念館、佐藤義美記念館、竹田温泉花水月

1-2-ア 調査研究成果の公開と共有 措置No.14

歴史文化館による特別展（企画展）の実施

調査研究成果に基づき、歴史文化館で多様な展示事業を展開し、竹田市の歴史文化の特徴や魅力について、市民や観光客に周知する。



歴史文化館での展示の様子

取組主体：市文、民間等
計画期間：R5～14

2-2-ア 学校教育との連携 措置No.34

教育プログラムの作成と「郷土学」の推進

学校教育と連携し、「総合的な学習」時間を活用し、子どもたちが地域の歴史文化や自然等を学べる教育プログラムを作成する。



小学校への出前授業

取組主体：市文、市他（学）、民間等
計画期間：R5～14

3-1-エ 文化財を活用した多様な取組の展開 措置No.51

文化財を活用したイベント実施の推進

文化財を活用しやすい環境をつくり、円滑かつ継続的に実施できるようにイベント開催の支援を行う。

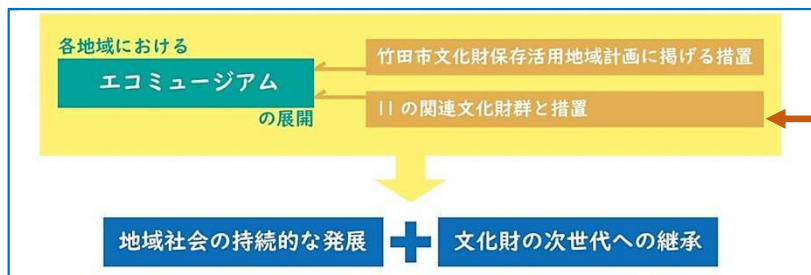


取組主体：市文、市他（観・支）、民間等
計画期間：R5～14

第23回たけな竹灯籠「竹楽」のポスター（左）と岡城桜まつりでの大行列の様子（右）

竹田市における「エコミュージアム」の展開

本市全域をひとつの博物館、各地域を展示室と捉え、住民が学芸員となり、地域にある身近な文化財（＝地域資源）をともに「知る・守る・活かす」取組を推進する。



●各地域の“推し”ポイントの発見（再発見）と情報発信

市民参加を促し、各地における地域資源の掘りおこしに努める。その中から文化財の保存・活用の柱となるような、地域住民が内に外に誇れる文化財を発見（再発見）し、住民全員で共有し磨き上げていくことが、本計画の第一歩。

竹田市文化財総合把握調査事業の実施（措置1～8、53）
岡藩主中川氏関連の文化財の活用推進（関連文化財群7、8）
周辺地域の文化財の磨き上げと活用推進（関連文化財群1～6、9～11）

●祖母山麓モデルと他地域への展開

ユネスコエコパークへの登録を機に、祖母山麓地域の住民を中心に「祖母山麓自然・共生空間整備プロジェクト実行委員会」が組織され、トレッキングコース等の整備、ガイドの育成、自然観察会の開催、希少動植物の保全に取り組んでいる。活動の担い手の中心は、若手で構成された「MMS21」というグループである。本計画では、この地域における住民主体の取組例を「祖母山麓モデル」と位置づけ、その活動を支えるとともに、同様の取組が他地域でも展開されるように、その仕組みづくりと発信に努めていく。

市民参加型の取組の推進（措置10、31～33、44、47～51）
未来の担い手づくり事業（措置34～38）
関連文化財群10（関連文化財群措置10-6）

竹田市の関連文化財群

（歴史文化の特徴）

阿蘇くじゅうの大自然と共に生きる歴史文化

“みち”がつなぐ歴史文化

岡藩の繁栄がもたらした歴史文化

祖母山に抱かれた奥豊後の歴史文化

（11の関連文化財群）

- ① くじゅうの大自然に育まれた歴史文化と営み
- ② 「日本一の炭酸泉」と長湯の温泉文化
- ③ 高原に花開いた竹田の先史時代文化
- ④ 竹田に息づく景行天皇の足跡
- ⑤ 南郡衆とキリシタン信仰の証
- ⑥ 車橋がつなぐ街道の歴史文化
- ⑦ 岡藩主中川氏による繁栄のあゆみ
- ⑧ 田能村竹田と豊後南画
- ⑨ 竹田が生んだ偉人列伝
- ⑩ 祖母山の大自然と大蛇伝説
- ⑪ 名水の恵みと農業遺産

関連文化財群④ 竹田に息づく景行天皇の足跡

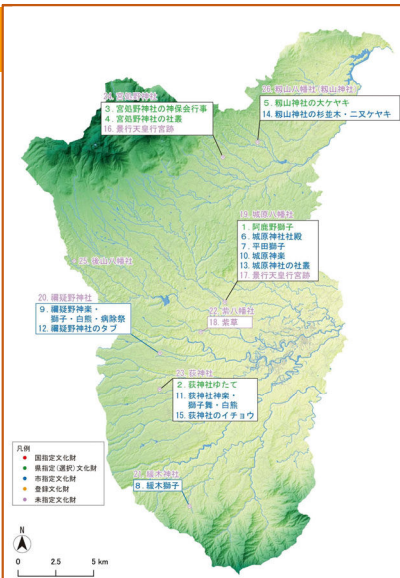
古事記や日本書紀の記述によると、禰疑野（ねぎの）に住む土蜘蛛討伐のため、直入郡への景行天皇の行幸があった。その時の行宮跡など、市内各地に点在する景行天皇伝承地に、後世になり神社が造営され、伝統芸能とともに地域住民により継承されてきた。



阿摩野獅子（県指定）



宮処野神社の景行宮趾碑



課題

- ① 一体的な保存・活用と、市内外への情報発信が不十分。
- ② 各神社の所蔵文化財の全容が明らかでなく、費用の不足などそれらの維持管理が不十分。
- ③ 担い手と後継者の確保の困難化と、伝統芸能用具の新調や修繕のための費用の不足。

方針

- ① 景行天皇の土蜘蛛討伐についての情報発信の強化と一体的な保存・活用の推進。
- ② 神社所蔵文化財の把握調査の実施と適切な維持管理の推進。
- ③ 地域の祭礼や伝統芸能等、継続的な活動の展開の推進。

措置

- 4-1 神社所蔵文化財の把握調査 ■ 取組主体：市文、民間等 ■ R5～14
- 4-2 伝統芸能を体験する機会の創出 ■ 取組主体：市文、市他（観・支）、民間等 ■ R5～14
- 4-3 無形民俗文化財等の保存団体への支援 ■ 取組主体：市文、市他（政）、民間等 ■ R5～14
- 4-4 デジタルアーカイブの整備 ■ 取組主体：市文、市他（観・支）、民間等 ■ R5～14
- 4-5 景行天皇伝承地共通看板の設置 ■ 取組主体：市文、民間等 ■ R5～14
- 4-6 伝統芸能イベントの実施 ■ 取組主体：市文、民間等 ■ R5～14

関連文化財群⑦ 岡藩主中川氏による繁栄のあゆみ

岡藩主中川氏による統治は廃藩置県まで続き、その治世は13代、約280年にも及んだ。初代藩主中川秀成により、岡城は総石垣の近世城郭へと変貌し、その西側の竹田村に城下町が築かれた。2代久盛と3代久清により藩政の基礎固めが行われ、8代久貞の時に由学館・経武館・博済館の3つの藩校が整備されている。丘陵に囲まれた城下町は、町家を武家屋敷と寺院が取り囲むような形で形成され、碁盤目状の町割りは今もほぼ維持されており、奥豊後の政治・経済・文化の中心地として賑わい、「竹田千軒」と称されるほどに町家が建ち並んでいた。

旧城下町を中心に市内各地に岡藩主中川氏ゆかりの多様な文化財が分布する。本市の歴史文化の基盤はその大半が岡藩時代に培われたと言え、それらは大切に今に受け継がれてきた。



岡城跡 ※国指定

碧雲寺の中川秀成肖像 (部分) ※県指定

願成院本堂 (愛染堂) ※国指定



岡城跡から見た竹田城下町

近世の町割りが残る城下町

課題

①岡城跡を含む岡藩史研究は中途段階であるため不明な点もまだ多い。情報発信も不十分である。

②岡城跡や岡藩主中川家墓所の整備は進んでいるが、その他の岡藩主中川氏ゆかりの文化財について整備に至らず、適切な保存と活用ができていない。中心市街地である旧城下町についても引き続き必要な整備を継続していく必要がある。

③中川氏ゆかりの寺院が管理する文化財の全容が明らかでない。また、建造物や絵画資料の維持に係る費用が不足し、十分な保存修理や整備ができていない。

方針

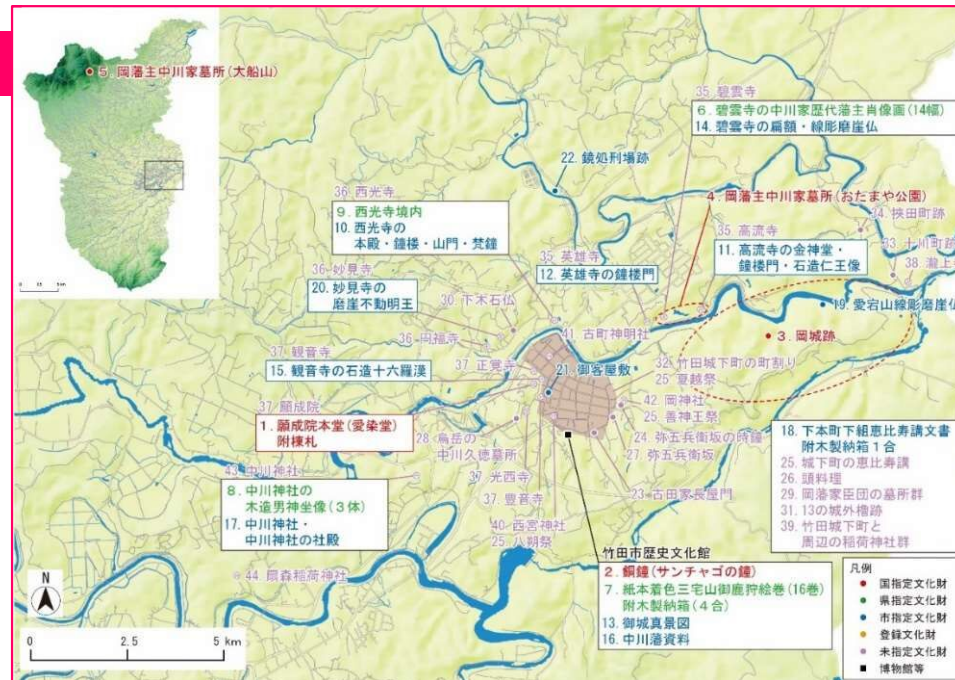
①-1 岡城跡の史跡整備の計画的実施と情報発信の強化。

①-2 古文書等記録資料の適切な保存と解読作業による岡藩史研究の推進。

②-1 岡藩主中川氏ゆかりの文化財の一体的な保存と活用の推進。

②-2 岡藩由来の城下町の町割りの維持と景観整備の推進と回遊性の向上。

③寺院所蔵文化財の把握調査の実施と一体的な保存と活用の推進。



措置

7-2 岡藩家臣団の調査研究と墓石等把握調査

諸士系譜・勤録、武鑑、城下家中図等の記録資料を活用し、岡藩家臣団の調査研究を行ない、家老や重職を務めた人物をはじめ藩士の屋敷地及び墓石の所在の確認を行う。

■取組主体：市文、民間等 ■R5～14

7-4 「岡城清掃の日」の実施

毎年10月第2土曜日を「岡城清掃の日」とし、九州電カグループと岡城跡の清掃活動を行う。

■取組主体：市文、民間等 ■R5～14

7-5 まちなみ景観の維持 (建物修景補助事業)

城下町の景観を維持するための建物の修景に対して支援を行う。

■取組主体：市建・観、市文、民間等 ■R5～14

7-8 史跡御客屋敷の保存整備と公開活用

指定管理等の方法を用いながら、御客屋敷の公開活用を図る。

■取組主体：市文、民間等 ■R5～14

7-14 岡城たのしみ隊の活動と支援

岡城跡の案内業務 (一般ガイドと甲冑武者ガイド) を担う岡城楽しみ隊の活動の支援を行う。

■取組主体：市文、民間等 ■R5～14



「岡城清掃の日」の作業風景



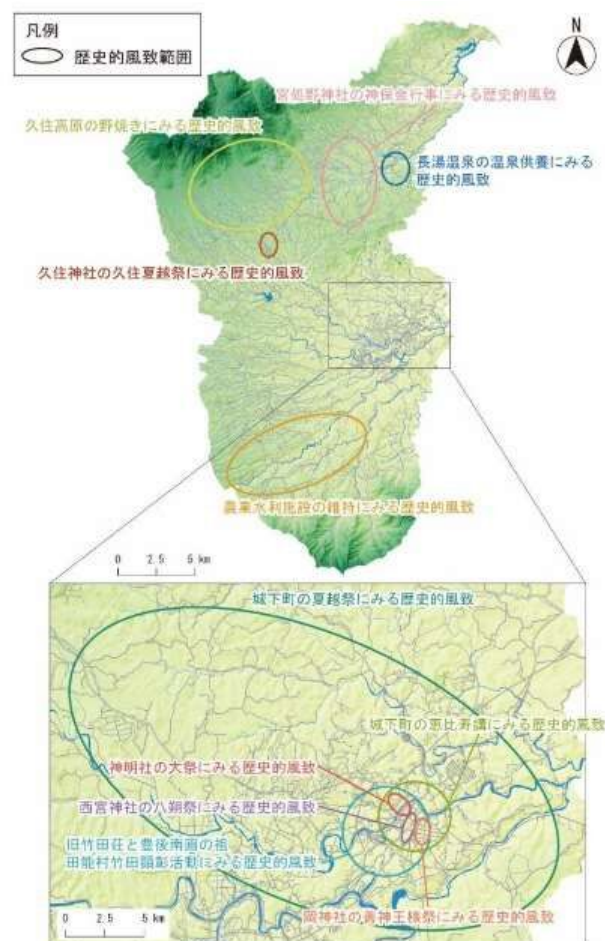
カフェとなっている史跡御客屋敷



ボランティアガイド、岡城楽しみ隊の活動

【参考】 関連計画等

●竹田市歴史的風致維持向上計画（H26～R5年度）



歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事業一覧

1	建物修景補助事業
2	旧竹屋書店保存修理事業
3	吉川家住宅保存修理事業
4	史跡岡城跡保存整備事業
5	西光寺境内保存修理事業
6	道路美装化事業
7	電線類無電柱化事業
8	城下町観光案内・道路標識・街路灯整備事業
9	歴史資料館等公開活用整備事業
10	岡城ガイドセンター整備事業
11	城下町回遊館整備事業
12	竹田荘公園等整備事業
13	風景に根ざしたやすらげる公園整備事業（ポケットパーク整備）
14	駐車場整備事業
15	城下町路地裏整備事業
16	城下町老朽危険空き家等除却促進事業
17	城下町空き家・空き店舗再生促進事業
18	城下町案内ガイド養成事業
19	城下町・岡城跡歴史学習事業
20	城下町案内マップ等制作事業
21	城下町移住定住支援事業
22	城下町・岡城跡回遊促進事業
23	民俗芸能等支援事業

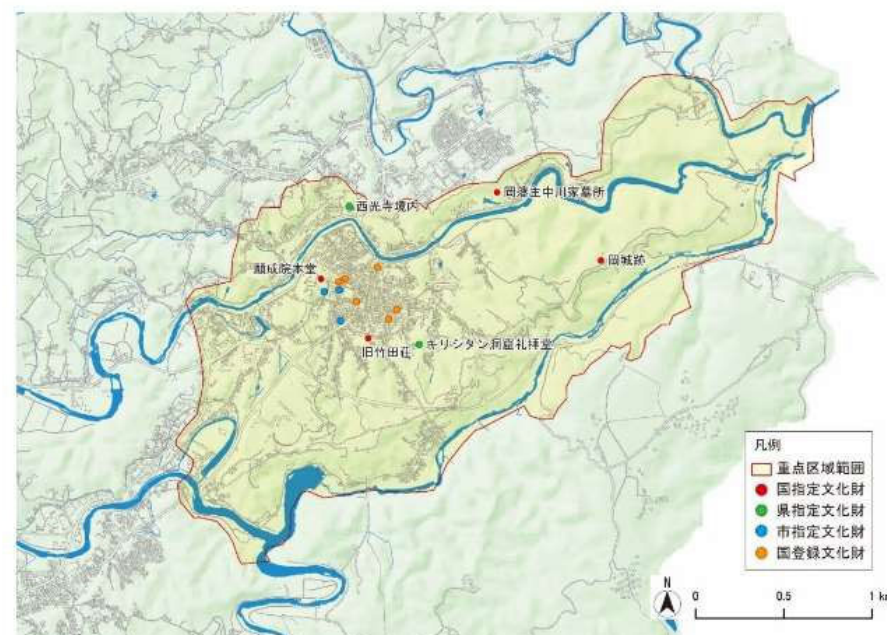


図1：竹田市の歴史的風致の分布図（竹田市歴史的風致維持向上計画より一部編集）

図2：重点区域の範囲と主要文化財分布図（竹田市歴史的風致維持向上計画より一部編集）